

東京電力福島第一原発事故は、国と東電が起こした戦後最悪の人災です。東電は、私が小学生の頃から教育にも介入し原発は絶対安全だと言い続けてきました。万が一の時は何重もの安全設計が働き、重大な事故は絶対に起こるはずがないと説明してきました。住民はそのことを半世紀近く信じ続けてきました。原発は制御棒で核分裂をコントロールできるから原爆と違って安全なエネルギーです。そのくらいの説明で住民は納得させられてきました。事故が起きて初めて崩壊熱・メルtdown・外部交流電源・冷却・核燃料貯蔵用プール・半減期等などの専門的かつ重要なことを知ることとなりました。事故が起きる数年前から幾度となく学会や国会で津波による全交流電源喪失の危険性を指摘されていました。でも、なにひとつ安全対策をとりませんでした。事故直後の東電は、事故の原因は想定外の津波であり津波が悪いと言い続けていました。何も反省していませんでした。想定外であればどんなことも許されるのでしょうか。原発の監督官庁である原子力安全保安院も同罪です。いったい安全のために何をやってきたのでしょうか。根拠のない安全神話作りに奔走し、儲け第一主義安全軽視の東電の片棒を担いで責任すら感じていません。原発事故の大原則である「止める・冷やす・閉じ込める」がコントロール出来ずに、絶対に起こしてはならない世界最悪の原発事故を起こしてしまいました。原発が危機的な状態に陥る中、一部の町を除き国・県・東電から住民への生命第一の素早い避難指示や誘導、そして情報公開等はあませんでした。そのため、多くの町民が混乱の中逃げ惑い避難中に被曝をしてしまいました。いざとなった時は、国や東電の対応は全く信用出来ませんでした。建屋の水素爆発の予測さえ出来ませんでした。過酷事故への対処マニュアルもなく訓練もしていませんでした。あまりにもずさんすぎて呆れて物が言えません。国・東電・保安院・安全委員会・御用学者は言い訳をして、事故責任のなすりあいをしています。誰が本当の責任者で、日本の原子力発電は一体どこが絶対安全だったのでしょうか。

国や東電の絶対安全だと言う言葉を信じてきた多くの住民は、騙され裏切られてしまいました。事故が起き気付いた時はもう遅すぎました。莫大な電源立地の交付金と引き替えに、また交付金の恩恵を受けなかった市町村も道連れにし多くの人々の生活が破壊されてしまいました。将来ある子供たちや地域の人々の夢や希望・幸せ、そして豊かで美しいかけがえのない故郷全てを奪われてしまいました。歴史上希に見る大罪です。しかし、誰もまだその責任を取っていません。こんなことが許されていいのでしょうか。

国や東電は原発建設のため、地域住民の雇用促進・生活向上そして絶対安全をうたい文句にしてきました。札束をちらつかせながら政治的圧力も行使し原発建設を強行してきました。そして1971年に1号機が稼動し丁度40年後、うたい文句とは裏腹に原発事故が起きてしまいました。長年大切に守り継承してきた故郷全てが破壊されてしまいました。失ったものは二度と元に戻すことができず、あまりにも大き過ぎて未だ計り知ることが出来ません。原発事故がどんなに恐ろしい事故であるかを知り、故郷に戻れ

ない悔しさと先の見えない大きな不安だけが残りました。故郷を失い、職を失い、助けてきた親戚・地域の人々・友達とも散り散りとなってしまいました。

避難直後から「故郷へ絶対帰りたい。帰るぞ」とみんなが思っていました。しかし、長引く避難生活により、故郷へ帰りたいがいつ帰れるか分からない諦めと、荒れてしまった故郷で生活する事への不安と、避難した地域に生活の拠点がすっかりシフトしてしまったことが、帰還への想いを次第に鈍らせてきました。帰りたい愛すべき故郷だったはずなのに、多くの人々が帰る意味さえ見いだせなくなっていきました。

避難した多くの高齢者の中には、環境の激変が原因となり避難先で次々と亡くなりました。私がお世話になった親戚の叔父や叔母も避難先で亡くなりました。例年より2倍の数です。望郷の念に駆られながらも故郷に帰れず亡くなられた人々の無念さを思えば、あまりにも残酷な仕打ちです。地域や学校で長年大切に保存・継承されてきた伝統や文化も途切れてしまいました。私が生まれ、数十年一緒に過ごした故郷の人々達とのコミニティも一瞬にして奪われてしまいました。

未だに放射線による汚染は、福島県民に深い傷跡を残し続けています。とりわけ風評被害は地元産業に壊滅的な大打撃を与え、経済的にも窮地に陥り大勢の人々が苦しんでいます。また、全国各地で心ない放射線によるいじめや差別も、福島県民の心を傷つけています。数十万人・数百万人の生活を破壊し不安に陥れ、生きるものの生命と健康と人間らしく生きる尊厳さえ脅かし続けています。不条理にも望まない生き方を強いられ、人生を狂わされた人々の絶望と憤りは計り知れません。

偽りの安全神話は脆くも崩れ、一度暴走し始めた原発は人間の手でコントロールできませんでした。原発事故の被害は地球規模で半永久的に生命と生活に甚大な被害を及ぼす非常に危険な悪魔のエネルギーです。今、原子力規制委員会の厳しいと言う基準を満たした各地の原発が再稼働を始めました。福島原発が絶対安全だと言っていた基準と何が違うのでしょうか。規制を厳しくした原発は絶対安全なのでしょうか。規制委員会は、再稼働をさせるため国民を欺くパフォーマンスをしているようにしか思えません。

福島県の復興は、原発事故のため岩手県や宮城県と比べて思うように進んでいないように思われます。放射性物質が復興を妨げているのです。除染や廃炉作業に莫大な労働力と資金がすぎ込まれています。賠償金と合わせると現在22兆円を超えています。その一部は国の税金と電気代に上乗せした資金でまかなわれています。原発事故さえ無ければと思うと、復興のため除染と廃炉作業に費やす莫大な労働力とお金が何と無駄であるか空しく思われてなりません。

東京電力福島第一原発事故が残した教訓を我々は決して忘れてはいけません。高レベル放射能廃棄物問題も含め問題は何一つ解決していません。「二度と騙されてはいけません。絶対に安全な原発は一つも存在しないのです。人類と核は共存できません。」

将来の子供たちに安心して暮らせる原発ゼロの未来をつくるのは私達の使命です。再び悲惨な原発事故を繰り返さないため、福島を始め、本日「フクシマを忘れない原発ゼロへ和歌山アクション2017集会」へお集まりのみなさんや、全国の人々と連携し、益々大きな運動となることを願って福島からの報告とします。